

サビエル生誕五百年



藤屋 健士
(下松市幸ヶ丘)

154

フィリピンのハギオ
はアメリカの植民地時
代に避暑地として開発
された街である。マニラとバギオを結
ぶ道路はベンケット道
路と呼ばれ、明治三十
六年（一九〇三）、日本人
人労務者の手で完成し
たことは前回記した。
カリフォルニア移民
の日本人の勤勉さを知

ケノン少佐が日本人労務者を集めたのだが、労務者あつせん会社は手数料ほしさから道路完成直前まで労務者を集めたため、完成とともに大勢の日本人が失業し、マニラ、バギオ周辺にあふれたという。それでもケノン少佐が高く評価した日本人

の勤勉さからか昭和の初めには日本人の地位は向上し、バギオや周辺の街では日本人が經營する店が目立つたと記録にある。

後の防御地は日本人が多く住むキンカンガンだった。

逃げ、極貧生活を送らざるを得なくなつた。

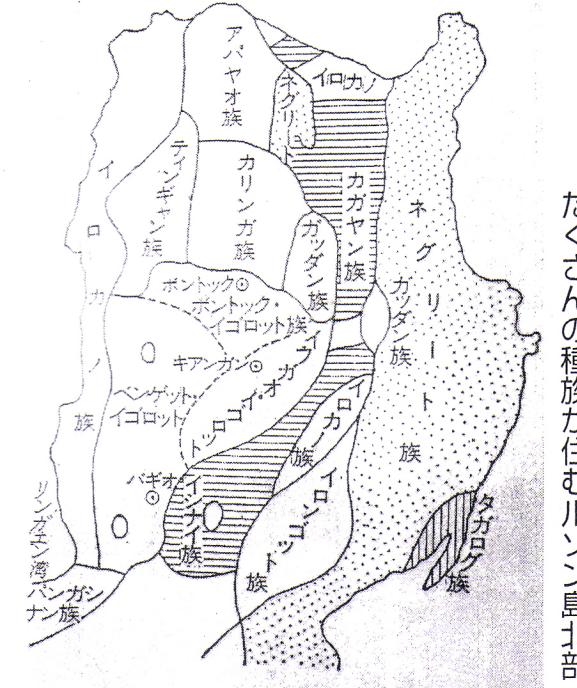
一九七二年、マリアの宣教者フランシスコ修道会の日本人修道女、シスター海野は日本での教員生活の定年を機に、太平洋戦争で多大な迷惑をかけたフイリピンで働くことを希望して赴任した。

人たちのためにも活動した。「ルソン島日系混血児の母」とも呼ばれて、現地で亡くなるまで献身的な活動を続け、名譽ベンケット州民の称号を与えられた。

現地の人たちは「あなたのは責任ではない、悪いのは戦争です」と、言つて笑つたという。恩地神父は自分できることはないかと、山岳民族出身のアンドリュー神父と話合つて始まつたのが、岳民族奨学金制度だ。

当初はイフガオ州
アンガンに住むイフ
オ族の子どもたちだ
だったが、たくさん
種族が住む山岳地だ

に、今はボントツ一族、ベンケット族などもいる。
（元山口放送取締役ジオ局長）



たくさんの種族が住むルソン島北部

彼女は

人の地道な活動による

奨学金制度を始

のた恩地神父（左）、ア

